

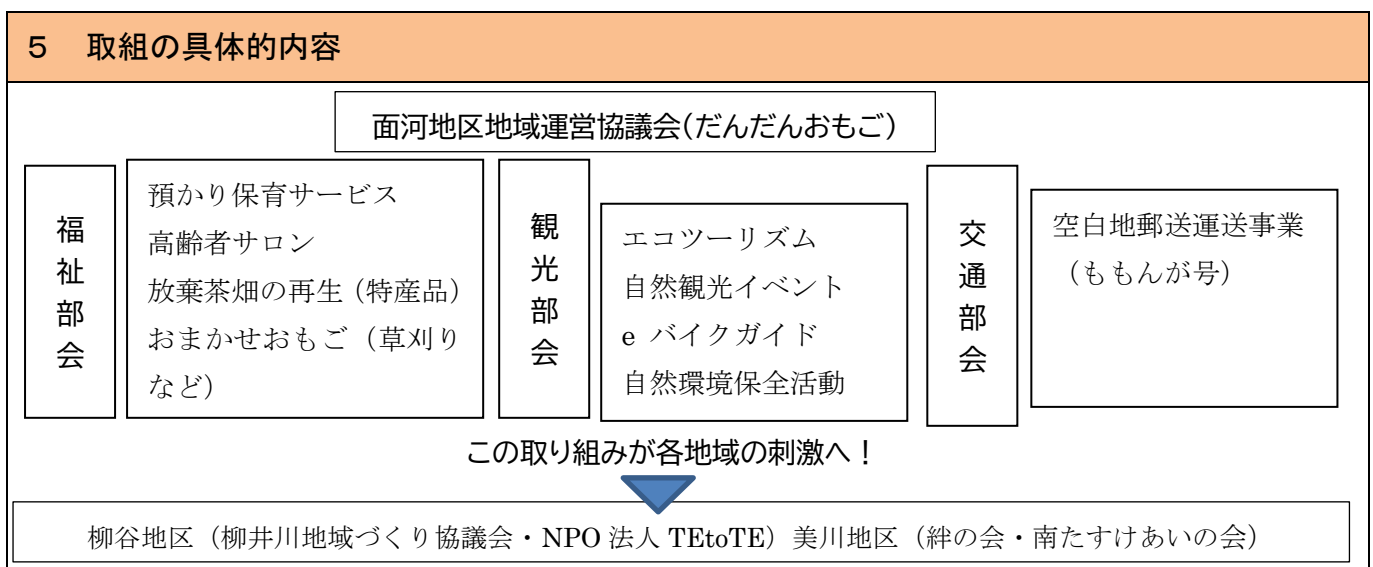
市区町村名	愛媛県久万高原町	担当部署	総務課秘書政策班
		電話番号	0892-21-1111

1 取組事例名
小さな拠点が創るローカル SDG s

2 取組期間
令和元年度～（継続中）

3 取組概要
<p>少子高齢化と人口減少が進むわがまちの地域課題を解決するため、小学校区を基本に地域運営協議会（小さな拠点）を設置し、それぞれの地域課題に沿った地域活性化に取り組んでいる。</p> <p>現在、5地区が設定されており、公民館が行う生涯学習事業だけでなく、福祉、環境、交通、観光、移住定住対策などあらゆる地域課題に対し地域が自主的に取り組んでいる。</p> <p>地域自主組織は地域が稼ぐ力を持つ取り組みでもあり、高齢者や児童へのケアはもちろん観光や特産品の活用も活発となり、地域の活性化に寄与している。</p>

4 背景・目的
<p>市内にプロジェクトチームが設置されており、そのなかで、地域コミュニティの中にそれぞれハブとなる機能が必要であるという提言が発端である。</p> <p>少子高齢化が原因で自治会も数人でしか構成されず、消滅が近い自治会も多くある。この中で地域の有志達が立ち上がり、消滅しつつあるコミュニティであっても引き上げていく、また、地域の若者が地域で活躍することで、地域内に活力が生まれ、高齢者への元気につながっていく、このような好循環を生み出すためにプロジェクトを進めることとなった。</p>



6 特徴（独自性・新規性・工夫した点）

面河地区は、旧村単位で設立されており、石鎚山系や面河溪の観光産業をベースに栄えた村の village pride を取り戻すために地域が立ち上がり各課題に精力的に取り組んだ。民間路線バスの廃止路線を地域で確保しているほか、観光においては、かつては全国有数の景勝地として栄えた面河溪を復活させようと尽力している。高齢者サロンや子供の預かり事業など少子高齢化に伴う支援策にも積極的に挑んでいる。この面河地区をモデルに各地で地域運営協議会の設立が続き、JA が撤退したため、地域が立ち上がり店舗生協の復活に取り組む。廃校となり使われなくなった寄宿舎をゲストハウス兼地域の交流拠点として復活させる。耕作放棄地を活用しもち麦栽培を始め健康食品としてふるさと納税で売り上げを伸ばすなど成功事例も出てきた。

7 取組の効果・費用

地域運営協議会を設置した団体には100万円を上限に毎年補助を行っているが、地域運営協議会によっては、補助事業の枠を超える団体もあり、自らの事業収入や各種補助・助成金を積極的に確保し、精力的な活動に結びついている。

成果連動の考え方としては、求めている評価を超える活動につながるものであり、本来ならば町で補助をしながら運営してきた事業を地域運営協議会が自立して事業をしており、地域自らが経済力を持ち、地域活動を進めていっていることから地域活力が行政負担の軽減にもつながっている。

JA の撤退によって地域運営協議会が自らスーパーを運営する動きや、廃止になった寄宿舎をゲストハウスとして運営するなどの取り組みが最たるもので、地域運営協議会の主体的な取り組みがなければ、地域活力は停滞する一方であった。

8 取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

高齢化や人口減少によって地域コミュニティの再編は必要だと町民は感じているが、若者やリーダーの不在により立ち上げが進む地域と困難な地域に別れた。将来的には中心市街地の地区を除き12地区を設定することを目標としているが、地域によって課題も様々であり、地域性に合った協議会設置への準備と運営を進めていかなければならない。

9 今後の予定・構想

久万高原町は高原野菜と良質な久万材、四国を誇る観光資源である石鎚山、面河溪、四国カルストなどがある。カーボンニュートラルとSDGsの時代に、地域運営協議会が、久万高原町の資源の好循環と田舎でも都会と格差なく暮らすことのできる環境づくりや、選果外で廃棄を余儀なくされる野菜や林業における未利用材を活用した新たな資源循環を稼ぐ仕組みに変える取り組みなども果敢に挑んで行くことで、久万高原流のローカルSDGsを実現していきたい。

10 他団体へのアドバイス

本町は愛媛大学社会共創学部から支援を受けており、地域運営協議会の取り組みは、「地元学」として学生教育にも取り入れられている。産・学・官・コミュニティの連携が重要である。

11 取組について記載したホームページ

